

中国一人っ子世代の親子・親族関係①
 ——婚資と住まいからみる世代間関係——

施 利平 (明治大学)

中国で1979年から2015年までの36年間一人っ子政策が続いてきた。その結果、これまで1億六千万人以上の一人っ子が生まれ、一人っ子世代が誕生した。一人っ子人口は2007年年末に1.5億を超え(楊・王2007)、2010年に1.64億を超えている(辜2016)。

一人っ子政策が厳格に実施されてきた都市部では、一人っ子家庭の約半数は一人娘の家庭である。これらの一人娘の家庭では、娘は家族の *only hope* (Fong2004) として親から愛情と資源を独占的に受け取り、男性にひけを取らない程度、またはそれ以上の教育を受けてきた。同時に彼女らはかつて息子に託されていた家系の継承者としての役割も、親から期待されている (Fong2004、沈2013)。娘しかないことは、財産相続や老親扶養・介護における娘の重要度の増加を意味し、父系的な親族関係の変容をもたらし(小浜2015)、父系親族規範そのものの弱まりを招く(Deutsch2006)と指摘されてきた。他方、富裕層にとっての資産継承者や貧困層にとっての老後扶養者として、息子が希求されるため、新生児性比のアンバランスが見られ、父系的な親族規範がむしろ強まっているという研究も見られる(田・王2008)。また、一人っ子世代の子どもの姓をめぐって、父系親族規範に沿い父方の姓を継承するのか。それとも母方の姓を継承するのか。またはほかの形をとるのかについて、夫婦、双方の親の間に対立が生じ、夫婦間不和や離婚が多く発生している。

本報告では一人っ子世代の婚姻形態と婚後の住まいのあり方に注目し、これまで父系親族規範のもとで行われてきた父系継承夫方同居の嫁取り婚は、都市部居住の一人っ子世代においてはどこまで実践されているのか、その背景にはある父系親族規範に変化が見られるかを検証する。一人っ子世代の婚姻形態や婚後の住まいに焦点を当てることにより、一人っ子の女性たちは父系親族規範に従い、夫方に嫁ぎ、夫方同居を実践しているのか。それとも父系継承夫方同居の嫁入り婚の婚姻形態を取るかわりに、夫側と妻側の両方の親のところに、それぞれ住まいを構え、決まった期間をどちらかの親元で生活し、双系的な親族関係を形成している(黄2014)のか、明らかにする予定である。具体的に婚資のやりとり、結婚式の費用、新居の購入、結婚時と調査時の住まいの実態を確認した上で、対象者たちの語りを分析する。

また本報告は、2019年に浙江省紹興市在住の一人っ子世代の女性対象者(80年代と90年代生まれの既婚、子持ち)10名に対して行なったインタビュー調査の結果に基づくものである。

<参考文献>

沈奕斐2013『个体家庭 iFamily：中国城市現代化過程中的个体，家庭与国家』上海三聯書店

Deutsch, Francine M., 2006, Family piety, Patrilineality, and China's One-child Policy, *Journal of Family Issues* 27(3):366-389

Fong, Vanessa L., 2004, *Only Hope: Coming of Age Under China's One-China Policy*, Stanford University Press.

辜子寅2016「我国独生子女及失独家庭規模估計—基于第六次人口普查数据的分析」『常熟理工学院学报(哲学社会科学)』1:83-89

黄亜慧2014「蘇南地区的并家婚姻考察」『中国青年研究』11:24-28

小浜正子2015「現代中国の家族の変容—少子化と母系ネットワークの顕現」小浜正子編『ジェンダーの中国史』勉誠出版 43-53

田雪原・王国強編2008『中国の人的資源——豊かさと持続可能性への挑戦』法政大学出版局

楊書章・王広州2007「一种独生子女数量间接估计方法」『中国人口科学』4:58-96

(キーワード：一人っ子世代、世代間関係、父系親族規範)

謝辞：本研究はJSPS 科研費 JP19K02052 の助成を受けたものである。